ぐんまの赤十字

January. 2024
vol. 27

特集
群馬県における赤十字の災害救護活動

珠洲市で活動する日本赤十字社群馬県支部救護班

特別企画　群馬県内における前橋赤十字病院の災害救護活動
各施設から　災害時に生活の場となる避難所の現状と課題／原町赤十字病院の災害救護体制
私たちは血液を必要としている患者さんに必ずお届けします！／
日赤救護班について ～災害・事故にいち早くかけつける対応チーム～／防災セミナーのご紹介 ～地域で育む防災力～
非常食応用レシピ　ビーフカレーを応用したレシピ
Information　群馬クレインサンダーズは献血を応援しています！／
【速報】令和６年度能登半島地震における日本赤十字社群馬支部による早期の活動

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

特集

特別企画

群馬県内における前橋赤十字病院の災害救護活動

令和6年1月1日（月）に発生した石川県能登地方を震源とする「令和6年能登半島地震」。日本赤十字社は一人でも多くの方を支援するため、たゆまぬ活動を継続しています。災害医療とは？日赤の災害救護とは何か？前橋赤十字病院で災害救護の中心的な役割を担う、高度救命救急センター長　中村光伸医師に話を聞きました（インタビューは、能登半島地震以前のものになります）。

中村医師に聞く、救急医療とは？そして、災害医療とは？

—中村先生の前橋赤十字病院（以下、「前橋日赤」）での日常での役職・役割は、どのようなものでしょうか？

集中治療科・救急科部長として診療科内のマネジメントを行っています。また、高度救命救急センター長として、救急外来や、救命救急センター病棟、集中治療室の管理と、対外的には消防や行政との調整や、救急・災害医療体制の構築を行っています。

—災害を想定すると、どのような役割になりますか？

基幹災害拠点センター長として、院内の災害対応体制構築が主な業務です。また、院内外の災害にかかわる方々に向けた災害救護訓練にも携わっています。

—群馬県の救急医療には、どのように関わってきましたか？

1998年に大学を卒業し、脳神経外科医として勤務を始めました。2000年に前橋日赤に入職し、救急部業務を行いながら脳神経外科医として研鑽を積んでいました。その後他院に異動し、2008年に前橋日赤に戻り、本格的に集中治療及び救急を始めました。

—群馬県の災害医療には、どのように関わってきましたか？

初めに災害に関わったのは大学病院に勤めていた時です。その頃にDMAT（災害派遣医療チーム）を取得しました。実際の災害救護に携わったのは、2008年、前橋日赤に異動してからになります。現在は群馬県災害医療サブコーディネーターの役職を担っています。

—日本赤十字社（以下、「日赤」）の災害対応における現在の役職・役割について教えてください。

日赤災害医療コーディネーターという役職で、本県が被災した際は県庁や支部に入り、初期対応にあたったり、各地から集まった日赤の救護班をまとめる役割を担います。

—救急医療と災害医療の「通じるところ」はありますか？

災害医療は「すべての合計」です。災害時は行政との連携、集中治療のノウハウ、プレホスピタル（病院前診療）の業務等の知識や技術が必要になります。そのため、救急医療に携わるスタッフは日頃からこれらの業務をしているため、災害時の対応がスムーズとなります。

—今までで印象的だった災害救護活動は何ですか？

2011年の東日本大震災の経験が一番印象に残っています。災害時、複数のドクターヘリが被災地に集まったのがこの時が初めてだったのです。当時、広域災害時のドクターヘリの運用ルールがない中、複数機のドクターヘリを取り仕切ることになり、今も災害時のドクターヘリの運用の検討に携わらせてもらっています。

東日本大震災　巡回診療の様子（左）、避難所の風景（中）、ドクヘリが複数機駐機している福島医大（右）

時代のニーズは、医療と福祉の連携、生活支援も踏まえた災害対応へ

—数々の大規模災害を経て、日本の災害対応システムは機能的になったと思いますが、主にどのような点が改善されたとお考えですか？

災害が起こるたびに様々なシステムができてきました。1995年の阪神淡路大震災では発災直後の初期医療の遅れから、「避けられた災害死」が500人いたといわれています。その反省からDMATや、災害拠点病院やEMIS（広域災害救急医療情報システム）ができました。東日本大震災ではDMAT等の多数のチームを調整するためのコーディネーター体制の構築が急務になりました。そして、熊本地震では、災害後の生活の中でお亡くなりになる、いわゆる災害関連死の割合が高く、生活環境の整備が課題となりました。そこで、医療だけでなく、保健・福祉も必要であると考えられ、DHEAT（災害時健康危機管理支援チーム）やDWAT（災害派遣福祉チーム）の体制整備が行われています。

現在は災害時、急性期の患者さんの対応についてはある程度確立してきていますが、やはり保健所等が行う保健・福祉と医療を担う災害拠点病院とのスムーズな連携は今後の課題となっていると思います。今後はこれらをどう融合して地域で関連させるのかを考えていかなくてはならないと思っています。吾妻地域では、災害拠点病院である原町赤十字病院と保健福祉事務所が一緒に訓練等を行い、連携を取り始めているところです。

群馬県被災時における前橋日赤の役割とは？

—群馬県被災時における前橋日赤の役割は何でしょうか？

災害の規模にもよりますが、まず、群馬県からの委嘱を受けている者が災害医療サブコーディネーターとして県庁に入り、県全体の状況を把握します。DMATを派遣しなくてはならない規模の災害であればDMAT調整本部を立ち上げます。また、他県から日赤救護班が救護に来る場合は日赤災害医療コーディネーターとしてまとめなくてはなりません。

—災害時における集中治療科・救急科の医師の立ち位置はどのようなものですか。

院長を災害対策本部長として、数人のメンバーで戦略センターを立ちあげます。そのメンバーの中に集中治療科・救急科の医師が入ると思います。災害対応の責任者は院長だとしても、専門的な知識を持つ戦略センターの各メンバーが多角的な視点で物事を検討する必要があります。実際被災者を受け入れることになれば集中治療科・救急科の医師が他科の医師やメディカルスタッフと協力して行うことになると思います。

広域災害時における前橋日赤に期待される役割とは？

—「首都直下地震における具体的な応急対策活動に関する計画」で、SCU（航空搬送拠点臨時医療施設）に選定された医療機関は国内初めてとのことです。従来の空港や公園ではなく、病院がSCUに指定されたことによるメリットがあれば教えてください。

病院がすぐ近くにあるということは、その人の命が救われる確率が高くなると考えています。SCUになっている空港などでどのような医療を展開するかを訓練してきましたが、あくまでも仮の救護所なので、できる治療は限られていました。救護所のすぐ近くに病院があればタイムラグがなく治療を行えるわけです。

日赤群馬県支部・施設、県外赤十字組織との連携

—県内の赤十字施設には血液センター、原町赤十字病院があります。それらの赤十字施設とは、平時・災害時にかかわらず、災害救護の面で協働することはありますか？

令和5年度　救護班訓練の様子

はい。血液センターとの連携については今後訓練を通して強固なものにしていきたいと思います。原町赤十字病院とも、役割分担を含め協力体制を構築する必要があります。

日赤救護班だからこそ発揮できる組織力とは？

—日赤の体制をどんな形にすればよいかという考えはありますか。

日赤の強みは地域との強固なつながりだと思っています。日頃から地域との繋がりがあり、市町村まで対応が行き届いています。災害拠点病院から避難所支援まで全部フラットにできるのは日赤しかないと思っています。急性期にも慢性期にも全力で対応できる、これが日赤救護班のネットワークや組織力が強みであり、これからも日赤に望む姿ですね。

災害救護のトップリーダーとして、次世代への想い

—「前橋日赤」「群馬県」「日赤」と、それぞれにリーダーとしての役職をお持ちですが、大規模災害時など、それぞれの役割にどのようにかかわり、また、他の人に任せるのでしょうか？

今回のコロナ禍の対応の中で見えたことは、病院長は病院運営のために病院に残る。だから私達サブコーディネーターは(当院の病院長に代わって）災害医療コーディネーターとしての役割をするのだろうと思います。しかし、長時間となる災害対応時には、複数の指揮官が必要となります。医師だけでなく、看護師や事務職員、その他のメディカルスタッフの育成が急務です。

私たち、ひとりひとりができる日頃からの備え

—最後に、今までの災害救護のご経験を踏まえて、私たち市民に向けて日頃から気を付けておくこと、備えるべきものがあれば教えてください。

自分の避難所の場所を日頃から確認しておいてほしいです。避難所に行ったら、普段話さない人達とコミュニケーションを取っていかなくてはならないので、日頃からそのような人達とコミュニケーションを取っておくことも大事ですね。また、各地域では避難所運営訓練をしているところもあるので、平時から顔を出してみることもお勧めします。

インタビュアー

災害対応において技術面以上に、コミュニケーションに重点を置いているように思います。対外的には普段から県や日赤内で人脈を作ることの重要性、また、内部的には人を育てることの重要性についてお話しいただきました。

災害時に生活の場となる避難所の現状と課題

前橋赤十字病院
高度救命救急センター病棟看護師長
髙寺 由美子

避難所のイメージ、ありますか？

みなさんは自宅が被災して避難しなくてはならないときに、どこへ行くか考えたことがあるでしょうか？近くの指定避難所がどこなのか把握しているでしょうか？

災害対策基本法第 49 条の7では、「市町村長は、想定される災害の状況、人口の状況その他の状況を勘案し、災害が発生した場合における適切な避難所の確保を図るため、政令で定める基準に適合する公共施設その他の施設を指定避難所として指定しなければならない」と記されていいます。皆さんの住む地域にも指定されている避難所があると思います。

慣れ親しんだ自宅から避難し、多くの人が集まった避難所での生活を想像してみてみましょう。

避難所運営の問題点とは？

阪神淡路大震災の避難所

令和時代の避難所（イメージ）

日本の避難所の現状は、上記写真を比べてみると、ほとんど変化がありません。「災害だからしょうがない」「日本人の道徳観なのか」という見方もあるでしょうか？災害時においては、心的ストレス、偏った食生活や運動不足、医療ケアが中断されるなどが原因で、持病の悪化による災害関連死が発生し、命を失うという事例が今もなお多く発生しています。

また、災害が発生すると多くの支援者が第一に救命医療、病院支援などを優先に活動を開始します。もちろんそれも大切な事ですが、生活を始めてしまってからでは、避難所の環境を修正することは容易ではありません。避難所の環境整備を発災直後から行うということも大切なこととなります。

避難所設営も備えが大切

しかし、平時からの準備状況が十分でない場合もあり得ます。備蓄されている物品にはプライバシーの確保が出来るような仕切りや下水道が使用できない状況に備えてのトイレの整備、栄養状態や形態を考慮した食料備蓄などが必要なものとして考えられます。

また、指定避難所は多くが学校であり、避難所となった場合に使えるエリアは平時より決められており、必ずしも避難してくる人の状態・背景を考慮したエリア設定になっているわけではありません。

そのような状況なので、避難所に行きたくないという人たちがテント生活や車中泊、半壊した危険が伴う自宅などで生活を続けるというような選択をされる方も多くいます。

赤十字看護師として思う共助に向けて

東日本大震災の際の病院支援活動の際、「私は今、避難所から出勤してきているんです」と話されていた看護師さんのことを思い出します。明日、もしかしたら自分もそうなるかもしれません。

少しでも快適に、みんなの安心・安全を考慮した避難所にしていくために、まずはトイレ・キッチン・ベッド（避難所の TKB）の環境改善を目指す。そのために必要な支援が受けられるように、どのように各団体・組織とつながっていくのかを一市民であり、専門職でもある私達は平時から考えていくことが必要なのではないかと考えています。

みなさんも、まずは自分の住んでいる地域がどのような避難所運営をしようと計画しているのか、それを知ることから始めてみませんか。

原町赤十字病院の災害救護体制

当院では病院運営を行う上で８つの柱を掲げております。その１つにあるのが「積極的な災害救護活動」です。

赤十字の重要な役割の１つである災害救護活動に積極的に関わっていくこと、そして、多くの職員が災害救護についての知識や技術を習得できる研修や訓練を実施し、関連施設との連携を図っていくことで近年、激甚化する「災害」に対しての備えを行っております。今回は災害救護体制についてご紹介します。

原町赤十字病院の災害救護体制は？？

いつ発生するか分からない災害への備えとして日赤救護班を２班編成しております。また、DMAT隊員の養成にも力を入れており、DMAT隊員登録者数は年々、増加しております。（下表参照）

過去には、日本航空機墜落事故、阪神淡路大震災、北海道有珠山噴火災害、新潟県中越地震、新潟県中越沖地震、東日本大震災、熊本地震災害、草津本白根噴火災害、平成30年７月豪雨災害　等へ災害救護チームを派遣しております。

3カ年毎のDMAT隊員数（年度末人数　＊2023年度は12月末時点）

	2011年	2014年	2017年	2020年	2023年
DMAT隊員数	２名	３名	７名	10名	13名

日頃の備えはどんなことを行っているの？？

★関連機関（警察・消防・行政・前橋日赤　等）と協働して行う訓練を開催
★病院外で行われる訓練や研修会への参加
★マニュアル（基本マニュアル・アクションカードなど）の見直し

↑現場エリア消防と連携

↑傷病者受入
原町日赤・前橋日赤救護班

↑災害時における各役割を示したカード（アクションカードと呼ばれてます！）
50個以上の役割について、１つ１つにこのカードがあります。
訓練を繰り返すことで検証を重ね、改訂を繰り返しております。

日頃、防災訓練をどんな視点でご覧になってますか？？

災害対応では、病院職員だけで無く警察・消防・行政・医療など幅広い連携が求められるため、日頃から連携を意識した備えが必要です。当院では、定期的に訓練や会議等を行うことで有事に備えております。

上記写真は、近隣にて発生した大規模災害（多数傷病者発生）を想定した訓練です。

防災訓練を目にしたことがある方もいるかと思いますが、どんな視点でご覧になっていましたか？

傷病者を救出している光景を思い浮かべる方が多いかと思います。災害対応では、情報の集約が重要であり、迅速且つ確実に被害状況等の情報を収集することで適切且つ効率的な医療分配を行っております。災害対応を行っているのは、現場だけではないのです。そういった目線で防災訓練を見学したり参加しても良いかもしれません。

関連機関（警察・消防・行政・医療など）との連携強化

訓練では、災害現場での警察・消防・医療の連携や、その後の医療機関での傷病者の受け入れ、行政との連携に関しての一連の流れを時間経過とともに行いました。

なお、地域における大規模災害発生時には、吾妻保健福祉事務所が中心となり、吾妻保健医療福祉調整本部（以下、調整本部）が立ち上がります。

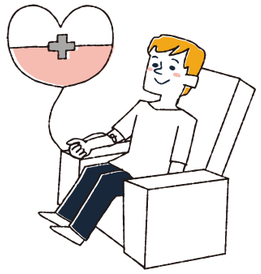
これは、吾妻郡内の被災状況を収集して適切に医療等を分配（医療チーム等を配置）する役割を果たしております。

地域における災害時には、災害拠点病院である当院と調整本部が連携することが非常に重要であり、当院から調整本部へ医師１名を派遣しております。

↑調整本部を原町赤十字病院内に設置することを想定した訓練

私たちは血液を必要としている患者さんに

必ずお届けします！



血液センターは平成24年に全国を７つの地域（北海道・東北・関東甲信越・東海北陸・近畿・中四国・九州）にブロック化し、各ブロックにおいて血液製剤の需給管理を行っております。ブロック内で在庫が減少した場合等においては、全国で調整を行います。

赤血球製剤は３日分を適正在庫として保管管理されています。災害等によりライフラインが途切れた場合でも、自家発電機により３日間は電気供給を確保し、血液製剤の品質を保ちます。

被災地血液センターから医療機関への供給が難しい場合は、隣接した血液センターが供給する体制を整えています。また、状況によって巡回して供給する場合もあります。

事例紹介

平成 26 年 2 月 14 日（金）低気圧の通過により関東甲信地方は記録的な大雪に見舞われました。特に群馬県前橋市では過去の記録を上回る 73cm の積雪を記録し、甚大な被害を受けました。15 日（土）・16 日（日）は交通網が麻痺した中、時間をかけてトラック等で、17 日（月）はヘリコプターにより、血液製剤が群馬県赤十字血液センターに搬送されました。また、医療機関に供給する際には、車両に雪かき用のスコップと滑り止めの段ボールを積み込み、通常1名体制のところ2名に増員して配送業務を行いました。遠方の医療機関への供給は朝に出て夜の戻りになるなど長時間となりましたが、無事にお届けすることができました。

群馬ヘリポート（前橋市）で血液製剤を受け取る様子（平成26年２月17日）

日赤救護班について ～災害・事故にいち早くかけつける対応チーム～

赤十字では、国内の地震・台風・事故などの災害や、有事の事態が発生した場合、被災地へ医療救護活動を行う救護班を派遣します。その歴史を紐解くと、1888年（明治21年）、福島県の「磐梯山噴火災害」を始まりに多くの救護員を災害現場に派遣して来ました。1923年（大正12年）には関東大震災が発生し、多くの死傷者と混乱がある中で、すでに戦時救護の「ノウハウ」を生かした救護活動を展開していました。

今、震災から100年という時代を経て、日赤群馬県支部においては、前橋赤十字病院、原町赤十字病院を中心に急性期医療の「ノウハウ」、そして、地域医療の「ノウハウ」を生かした災害医療を構築し、多数の傷病者を受け入れ、迅速に救護班を派遣することが可能な体制を整えています。

また、被災地では医療を提供するだけでなく、「こころのケア活動」も積極的に行っています。こころのケア活動ではストレスやその対処法などについてお話し、安心感・安全感を持って頂けるよう活動を行います。

併せて、日赤群馬県支部においては「日赤救護班」「こころのケア」の活動以外にも、以下のような災害救護活動を行い、被災者への支援にあたっています。

- ●救援物資を備蓄し、被災された方へ配布すること
- ●献血体制を整え、けがをされた方への輸血用血液を供給すること
- ●義援金を受け付け、被災された方へ配分すること
- ●災害時に活動をする赤十字奉仕団、防災ボランティアを育成し、派遣すること　など

※関東大震災における日本赤十字社の活動

救護実数	56 万 2381 人（延 206 万 7500 人）
活動職員総数	4466 人
救護機関総数	193（救護所、臨時病院、産院など）

※日赤群馬県支部の災害医療体制

	前橋赤十字病院	原町赤十字病院
病院機能人員体制	基幹災害拠点病院 高度救命救急センター	災害拠点病院
	病院本部要員・統括DMAT 県災害医療コーディネーター など	病院本部要員など
救護班派遣体制	「医師・看護師・事務等」×8チーム	「医師・看護師・事務等」×2チーム
	薬剤師、支部事務局職員、赤十字奉仕団や防災ボランティアの同行 など	
その他	救護員看護師、日本 DMAT 隊員、群馬 DMAT 隊員などを多数登録	

防災セミナーのご紹介 ～地域で育む防災力～

過去の災害の教訓を踏まえ、大規模災害から、人々のいのちを守るためには、地域コミュニティにおける「自助」と「共助」の力を高める防災教育が極めて重要と言われています。

あなたの街で災害が発生したら予想される被害や救助活動、避難生活などの課題を具体的にイメージしながら、命を守るさまざまな方法を地域に密着した形で学ぶ。それが赤十字防災セミナーです。

災害・防災についての考え方を学ぶ講義や、防災マップの作製を通じて、防災意識を高めることを目的としたグループワークなど、幅広いセミナーをご用意しております。

＼組み合わせ自由！／

赤十字講習プログラム

ご希望（時間・内容・会場・人数）に合わせて、講習会を開催できます。

防災と災害時支援

防災セミナー

防-1 **災害の備え**（通常版:60分/短縮版:30分）
❶地震・大雨土砂災害からいのちを守る
❷暮らしをつなぐ
❸感染症から身を守る

防-2 **災害エスノグラフィー**（120分）
（大規模災害の被験者の経験談を読み物として、災害を追体験できるグループワークです。）

防-3 **災害図上訓練【DIG】**（120分）
防災マップの作製を通じて、防災上の資源や危険な場所を把握し、防災意識を高めることを目的としたグループワークです。

災害時の避難生活や支援活動に役立つ知識と技術

防-4 **避難生活でいのちと健康を守る知恵**
❶災害が及ぼすこころとからだへの影響について
❷避難生活で気をつけたい病気や症状とその予防

防-5 **支援活動に役立つ知識と技術**
ホットタオル、リラクゼーション、レクリエーション、毛布ガウン、風呂敷で作るリュックなど、知っておくと役に立つ実技です。

防-6 **災害時の乳幼児支援**
❶乳幼児と保護者への支援
❷心地よく生活するための知恵

お申込・指導員の派遣について

❶開催希望日の２か月前までにお電話にて打診ください。
❷お電話での調整後に指導員派遣申請書をお送りください。
（指導員派遣申請書はホームページからダウンロードできます。）

☎ 027-254-3636 講習係まで（9:00～17:30）

前橋赤十字病院栄養課監修

非常食応用レシピ

ビーフカレーを応用したレシピ

［栄養価］（1人分）

エネルギー	585kcal
たんぱく質	20.3g
脂質	10.6g
炭水化物	97.8g
食塩相当量	3.0g

［材料］（1人分）

レトルトもしくは缶タイプの
非常食ビーフカレー……1人前
スパゲティ……1人前
（乾燥ロングパスタで約100g）
玉ねぎ……1/2個
ピーマン……1/2個
油……少々
塩……少々
こしょう……少々

［作り方］

1. ビーフカレーは湯煎しておく
2. スパゲティはメーカー指定の作成で1人前を茹でる
3. 玉ねぎとピーマンは薄くスライスする
4. フライパンに油をしき、玉ねぎとピーマンを炒める
5. 玉ねぎに色がつきはじめたらフライパンに1を混ぜ合わせ、塩・こしょうで味を整える
6. スパゲティに5をかけてできあがり

コメント
comment

味付けの濃い非常食ですが、野菜を加えることでバランスがとりやすくなります。

Information

群馬クレインサンダーズは献血を応援しています！

令和６年能登半島地震における日本赤十字社群馬県支部による早期の活動

令和６年１月１日、「令和６年能登半島地震災害」が発生しました。群馬県支部及び群馬県内の赤十字施設は発災直後から情報収集を開始し、翌日からのDMAT派遣をはじめとして、赤十字救護班、赤十字コーディネートチーム、支援要員、赤十字ボランティアの被災地への派遣を行っています。

読者の皆さんの声　募集中　よりよい広報誌にするために、ご意見をぜひお聞かせください！

●本広報誌へのご意見・ご感想　●群馬の赤十字のこんなことが知りたい！　などなど

応募期間　2024年５月31日（金）まで

抽選で10名様に献血運搬車ミニカーをプレゼント!!
※当選のご連絡は発送をもって代えさせていただきます。

ご応募と ぐんまの赤十字 バックナンバーは こちらから

ぐんまの赤十字
発行 日本赤十字社群馬県支部、前橋赤十字病院、原町赤十字病院、群馬県赤十字血液センター
問い合わせ先 （住所）〒371-0833　前橋市光が丘町32-10　（TEL）027-254-3636
URL https://www.jrc.or.jp/chapter/gunma/